

## 学びと成長の10か月

岩見沢校 芸術スポーツビジネス専攻  
4年 横峰のどか

私は2018年2月から11月までの10ヶ月間、オーストラリア北東部に位置するタウンズビルという街で過ごしました。この短い留学生活は、勉強面と生活面共に私に大きな影響を与え、かけがえのない経験となりました。環境も文化も違う世界での生活は、逃げ出したいくなるようなことが何度もありました。しかし、それらを乗り越え、成長して帰国した時、私は何事にも代え難い達成感に満たされました。

私は10ヶ月間のうち、6ヶ月を学術的な英語力を向上させるためのEAP(English for Academic Purposes)コースで、4ヶ月をビジネス学部で学習しました。EAPコースはレベル2からレベル5までの英語力ごとに分けられ、少人数制で授業がおこなわれました。主にリスニング、ライティング、リーディング、スピーキングの向上を目的とし、学期末には、約1500文字のレポート提出とEAPコースの全員がそれぞれのレポートの内容に沿ったスピーチをしました。このコースは英語を第二言語とする様々な国から留学生が通っていたため、私が同じクラスになった女性とは、コミュニケーションを取るのが難しいと感じることがよくありました。しかし、日を重ねるごとに段々と仲も深まっていき英語力も上がっていたので、日々の授業の時からお互いに切磋琢磨しながら学習できたと思います。さらに、このコースで最も重要だったのは、レポートで必要となる参考文献の正しい書き方と意味を教えてもらったことでした。決められた様式のルールから、少しでも違っていれば盗作になってしまうので、先生方も親身になって教えてくれました。また、EAPコースは、オーストラリアの文化や歴史を知るために、授業の中でも何度もそれらのことについて取り上げてくれました。その中では、現代は緩和されたが過去には禁忌とされたポーズ、日本人がよくやってしまうVサインが厳しく非難されていたことも知りました。私がEAPコースレベル3の時には、1日使って、先生方も含め全員で近くのビーチ遊びに出かけたこともありました。それぞれがお昼を持ち寄ったことで、様々な国の食文化を感じることができました。さらに、魚釣りや綱引き、大縄跳びなどで遊んだり、誕生日の人がいる時にはケーキが用意され、授業を中断してみんなでお祝いをしたりしました。EAPコースでは、学部に入る前の準備段階として英語力をあげるだけでなく、色んな国の文化を体験することができました。

学部に入ってから授業は、格段に忙しくなりました。EAPコースと違い、1教科2時間の講義と1時間のグループワークが週に1回ずつあるだけでしたが、予習復習と、定期的な提出しなければならない課題やテストの両方を同時にこなしていかなければならず、毎日図書館に通う日々でした。また、現地学生と同じように講義を受けるため、授業のスピードもレベルも上がり最初の頃はついていけないことと、自分の英語力の乏しさに苦悩するばかりでした。授業形態は、各教科によって様々だったが、講義形式とグループワークを組み合わせものがほとんどでした。私は、Consumer Market, Project Management, Sports Management,

Effective Writing の 4 科目を受講していましたが、最も大変だったのはグループ課題でした。ジェームズクック大学では留学生を多く受け入れているため、異なる文化の人たち同士で 1 つの課題に取り組むのは、課題以外での問題も起こり非常に大変でした。しかし、私は多くの友人達に恵まれ沢山の人からアドバイスをもらいながら最後まで取り組むことができました。当時は本当にやりたくない、グループのメンバーとも会いたくないと思うほどでしたが、今ではやり遂げて良かったと思っています。この学部生として過ごした 4 ヶ月間は、困難にも立ち向かっていけるように自分を大きく成長させてくれたと思います。

タウンズビルで過ごした 10 ヶ月は、生活力が養われた期間でもありました。私はそれまで一人暮らしをしたことがなく、大学も実家から通っていたので、掃除や洗濯、食事などは母に頼っていたことがほとんどでした。最初の頃は、環境にも言葉にもまだ慣れないうちから授業が始まり、加えて不慣れな家事にも追われ、目まぐるしい 1, 2 ヶ月を過ごしました。毎週末に、バスに乗ってショッピングモールまで行き 1 週間分の食材を買っていましたが、どのくらい日持ちするのか、野菜が高いのか安いのかも分からず腐らせ、毎週必要以上に買い物をしていました。生活していくうちに少しずつお金の使い方、買い物の頻度、安いスーパーなどが分かってくいき、EAP コースが終わるころには料理の幅も広がり効率よく家事をこなすことができるようになっていました。また、困った時にすぐ応えてくれた母の凄さに気づきました。

大学内の寮生活は、とても充実したものでした。鍵付きの個室と、リビング、キッチン、お風呂、トイレが共有の 1 フロア 7 人の共同生活は、楽しくて優しいフロアメイトに囲まれました。ある女の子は、日本にすごく興味を持っていて、漢字や文化について聞いてきたり、日本食のレシピを書いて欲しいとお願いされたり、一方私は英語を教えてもらったりとお互いにいろんなことを話すことができました。また、フロアメイトのみんなが私の誕生日に、サプライズでケーキやプレゼントを用意してくれたこともあり、とても思い出に残る素敵な誕生日になりました。寮全体で行われるパーティーに参加することもありました。日本にはないイベントだったのでとても新鮮でした。この寮での生活は自らを自律させ、オーストラリアの文化を直に体験する素晴らしい時間となりました。

ジェームズクック大学で過ごした 10 ヶ月間は、今までの私を大きく変えた貴重な時間でした。留学をすると決めてから留学中、帰国するまでたくさんの人に支えられ、協力してもらい無事に終えることができました。加えて、多種多様な文化にもふれ自分で感じて考えて行動し、立ち向かい、決断する力が身に付いたと思います。この経験を活かし難しことにも積極的に挑戦していきたいです。

今留学を考えている学生さんたちの中には不安や心配なことばかりで勇気を出せずにいる人もいるかもしれません。私も同じでした。しかし、留学前は今までの先輩方や実際に留学中の人、現地ではたくさん友人に囲まれ助けられ、留学をサポートしてくれます。面倒に思うことや、大変なこともあるかもしれませんが、ただ、自分が大きく成長できる機会を手に入れたのなら是非掴み取って、有意義なものにしてほしいと願います。

ジェームズクック大学のボード前



誕生日会の様子（左）